

とよのっこ

学校便り

長野市立豊野西小学校
平成22年度



平成22年度学校運営のまとめ

平成22年度も、終わろうとしています。今年度もいろいろな出来事はありませんでしたが、大過なく無事終わることができそうです。これも保護者、地域の方々をはじめ多くの方々に支えていただいたお陰です。学校運営にご協力いただいた皆様へ感謝であります。

学校自己評価の報告

平成22年度は、めざす子ども像「自分から伝え合う子ども」として、

学校運営の重点目標

- ◎ 克己…頑張るすばらしさを味わう子ども(体) → そうじ「無言清掃ができる子ども」
- ◎ 連帯…助け合っとうれしさを感じる子ども(徳) → あいさつ「大きな声であいさつができる子ども」
- ◎ 探究…考えぬいたのしさを覚える子ども(知) → きく話す「進んで話し進んで伝え合うことができる子ども」

を中心に、学校教育活動に取り組んできました。

今年度の取り組みの概要につきましては、これまでの学校便り「とよのっこ」でもお知らせしてきました。また、11月には取り組みへの意見を聞くための保護者アンケートをお願いしました。アンケートの結果は、別紙「学校評価保護者アンケートの結果報告」をご覧ください。全体的によい評価をいただきましたが、まだ十分でない点、反省すべき点もいくつか指摘していただきました。それらも含め、ご意見を参考にさせていただきながら、その後の取り組みに生かすよう学校運営を進めてきましたし、さらに来年度へ改善点として生かしていきたいと考えております。

そして年度末を迎え、本年度の学校運営についての学校自己評価についてまとめました。以下がその概略です。

そうじ『無言清掃ができる子ども』

具体的取り組み

無言清掃に視点をしぼり、学級での指導のほかに、姉妹学級清掃や縦割り清掃などの形態を取り入れて、無言でしっかりと清掃に取り組む意識を高めてきた。

今年度の成果

- ・チャイムで立ち止まり、心を落ち着かせてから清掃に入ることが習慣化されてきて、無言清掃をしようとする意識にもつながった。
- ・がんばっている姿を放送などで取り上げることで、無言清掃への意識が広がってきた。

来年度の方向

- ・無言清掃は、本校のよき伝統として定着しつつある。さらに伸ばすために、自分から取り組む姿勢づくりに取り組んでいく。

あいさつ『大きな声であいさつができる子ども』

具体的取り組み

あいさつ週間を年3回設定したり、児童会活動の中心にしたりして、意識化を図った。縦割り活動などを通して、交流の場をつくり、個々のつながりも深めてきた。

今年度の成果

- ・児童会各委員会の活動の中で、いろいろなあいさつを取り上げてきたことで、あいさつをしようとする意識が広がってきた。
- ・縦割り班の活動を通して、学年を超えてあいさつを交わす姿も見られるようになった。

来年度の方向

- ・校内でのあいさつはできるが、地域に出たとき自然なあいさつができない面が見られるので、家庭、地域とも連携しながら、共に高めていくようにしていく。

きく話す『進んで話し進んで伝え合うことができる子ども』

具体的取り組み

伝え合うことに視点を置き、日常的な発表やスピーチの場面で、発表し合うだけでなく、話し合う活動になるよう工夫してきた。

今年度の成果

- ・各学級のスピーチの時間の継続や、集会での「きく話す」ことへ意識付けによって、きちんと「話す」ことや相手に伝わるように「話す」ことへ、気持ちが向いてきた。
- ・指名や板書で各自の考えをはっきりさせたり、考えの比較を意識させる学習場面を仕組むことで、意欲的な話し合いの姿も見られた。

来年度の方向

- ・児童評価からも、「みんなの前で思っていることを話す」ことが弱く感じている。「お互い関わり合っって話す」場面を設定したり、素直に話せる人間関係づくりを進めていく。

詳しい学校自己評価については、2月23日(水)に、学校評議員とPTA三役の皆様とで組織した「学校関係者評価委員会」に報告させていただくとともに、ご意見をいただきました。今年度学校評価の課題と、いただいたご意見、保護者地域の方々の声などを基に、来年度平成23年度の学校運営計画の作成を進めております。来年度も、豊野西小学校の学校運営へのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

おはようございます。

寒い毎日がつづいていますね。でも休んでいるように見える草木も、春に向けて着々と準備を始めています。豊野西小学校の皆さんも、次の年に向けて、わくわくし始めていることでしょう。

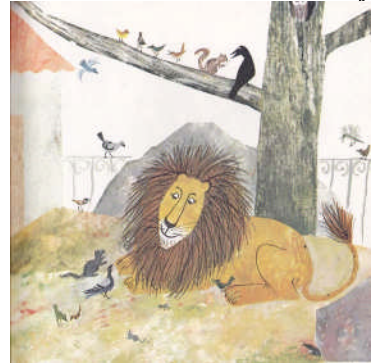
さて、今日はみなさんに、「すてきなことからもの」というお話をします。みなさんの宝物は何ですか。ザリガニですか。りんごでしょうか。こまですか。このお話を聞いて考えてみましょう。

少し温かくなった春の朝。ライオン君の友だちが集まっています。「ねえ、ライオン君は、動物園のスターだし、遺言状を書いているの？」 「遺言状ってなんだい？」ライオン君が尋ねました。みんなよくわかりません。そこに頭の良さを自慢しているカラスが言いました。「遺言状っていうのはね。自分の持っているものを、年をとって死んだときに、だれにあげるか、書いておくものさ。」

おくさんとふたりになったライオンは考えました。「なるほど。友だちに僕のをあげるのか。何が、いいかな。そうだ、僕のまわりにあるほりは、あしか君にあげよう。今のプールじゃ狭いから、あしか君は、ひろい堀で喜ぶぞ。ここの2本の木は猿君の運動用にどうかな。ちょうどいいかもしれない。大きな岩は熊くんにあげよう。熊君がこのうえで昼寝をするんだ。よろこぶぞ」

ライオン君はおくさんとうれしそうに話をしました。それをそばで聞いていたのは、物知りのカラスです。「ちょっとまった。今のものは、みな動物園のものだから、君のじゃないよ。だから、友だちにあげるわけにはいかないんだよ。」

「え、そうなの？プレゼントできるものをぼくは何も持っていないのかい？」 「がっかりしないでよライオン君」 そこに表れたのは、ライオンの世話をしている動物園のフランソワ君でした。「きみは友だち全部を幸せにできる、すばらしい宝ものを持っているんだよ」「ほんと、それは何」とライオン君、「それは、秘密さ。探してごらん」 「え、ライオン君がひみつの宝物を持っているんだって、それは何だろう。みんなに知らせて探さないと カーカー」



～ 中略 ～

ライオン君は、集まっている仲間を悲しそうに見回しました。「ねえみんな」ライオンが言いました。「君たち、どうしたんだい。君たちがけんかしていると僕は悲しくなっちゃう。それで、わかったんだ。僕が一番大切にしているもの。それは、友だちの君たちなんだってこと。それが、フランソワ君の言っていた秘密の宝物じゃないかって思うんだ」カラスが言いました。「そうか！私としたことが気が付かなかった。君の秘密の宝物は、家の中やほりの中、木の穴に隠れているんじゃないんだ。君の胸の内にしっかりとしまわれていたんだ。」

そこに、全てを見ていた飼育係のフランソワ君がやってきました。「とうとう すてきな宝物を見つけたね。」

カラスは、さっそく遺言状を書き始めました。「ごきげんなライオン君は、幸せの鍵をだれにでも贈るものとする。」今度は、みんながうれしくなって歌って踊った。「さすがは、ぼくらのライオン君だ。大好きさ。みんながみんなをだ～いすき！」

今日はいい日だったね。その日の夕方、ライオン君は奥さんに言った。僕らの幸せの鍵をみつけて、本当に良かった。

今年度はあと1ヶ月となりました。今年の活動を通して皆さんも宝物をもらったのではないのでしょうか。

みなさんが、今年豊野西小学校でみつけた宝物は何ですか。皆さんの宝物を大切に育てて、周りの人にプレゼントして、もっと価値あるものになるといいですね。今日はすてきな宝物というおはなしをしました。

もうすぐ卒業式です。

卒業生の保護者の皆様には、お子さんのご卒業を心よりお祝いをいたします。

在校生の保護者の皆様には、お子さんの現学年の修了と進級を共に喜ぶとともに、引き続き来年度の豊野西小学校の学校運営へのご協力をお願いいたします。

